

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(7月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『けんちゃんのもみの木』

美谷島邦子 文 / いせひでこ 絵 / BL出版

対象：幼児から高齢者まで



内容のご紹介

“けんちゃんのもみの木”を読んで37年前の上野村おすたか山の航空機事故を思い出しました。

昭和60年8月12日の暑い夏でした。520人の犠牲者を出し生存者は、わずか4人でした。当時、原因は何かと思っただけがありました。御家族の皆様もたいへんつらい日々を過ごされたと思います。

ほんとうに胸が痛む大事故でした。

9歳のけんちゃんは初めての一人旅でした。

事故当時を思うといたたまれません。母親の美谷島さんは、事故現場に、お父さんが植えたもみの木の成長にけんちゃんの成長を重ねて、毎年、山に登りました。悲しみにより添い、子供の成長を見守ったのだと思います。

命の重さ、大切さを考えさせられます。

この絵本も必読の一冊です。

群馬県の山奥・御巢鷹山に墜落した日本航空機墜落事故から、この8月12日ではや37年になります。520人もの犠牲者を出したこの事故で、小学3年生だった健ちゃん(9歳)を亡くした母親・美谷島邦子さんが、悲しみの長い長い歳月を経て、辿り着いた思いを、絵本作家で画家のいせひでこさんと一緒になって、最近創作した絵本が『けんちゃんのもみの木』です。

事故にからむ絵本というと、悲惨さが描かれるだろうと思われそうですが、違います。健ちゃんの遺体が見つかった山の斜面に、父親が目印にと植えたもみの木が大きく成長していくにつれて、美谷島さんは心の中に健ちゃんが生き続けているのを実感できるようになり、悲しみや苦しみの感情を世界の子供もたちの平安と幸福を願う気持ちに昇華させて、絵本の最後は亡き520人が山の生き物たちと共に、もみの木をクリスマスツリーにして、安の安全と世界の平和を祈る灯をともして終わるのです。

アクリル絵の具によるいせさんの絵が、事故被害者の内面の苦悩と再生の歩みを深く表現しています。

(矢祭もったいない図書館)